

イスラームにおける女性: 抑圧か、それとも解放か?



数世紀も前から、世界各国のムスリム女性は、ヒジャーブ（ベール）の概念に忠実であることによる解放に気付いていました。そして現代社会における出来事が再度、イスラームにおける女性の解放を人々の意識の最上部まで持ち上げたのです。

ヒジャーブに忠実である女性が解放されるなどということがあるのか？

道徳を信仰の一部と見なす宗教が、男女の権利や責任、あるいは男女間の平等を明確に定義することが出来るのでしょうか？答えは明快です：“はい、出来ます。”非ムスリムはもちろんのこと、ムスリム自身からもイスラームの基本的教義に関する疑問が投げかけられる今日、イスラームを評価するには細心の注意を払わなければなりません。メディアによって描かれた一般的構図は偏見が入った、非現実的なものです。また一部のムスリムが世界に与えているイスラームの印象は、必ずしも全宗教の完成体である真の宗教を反映しているわけではありません。全ての時代の全ての場所の全ての人のための宗教であるイスラームは、男女の平等を真剣に受け止めています。イスラームは女性解放を不可欠なものと捉え、また謙遜さやよい性格や品行をこのような解放を達成する手段であると見なしています。

身体を覆っている女性はしばしば、現代の世界的な視点においては女性抑圧の象徴とされています。彼女らの存在は無学や不幸というような言葉で描写されています。西洋のメディアによって吹聴される“ぶたれる”、“抑圧される”、“虐げられる”などといった言葉は、イスラームにおいて女性には権利がないということを読者に無理に刷り込もうとするものです。描写的にも根本的にも“覆われた”“拘束された”という言葉は、奴隷や、夫や父親の所有物にされた意識のない女性たちを描写する際に使われます。19

世紀にT.Eローレンスはアラビアの女性たちを“散歩する死”と描写しましたが、その頃からイスラームにおける女性の本当の立場は誤解によって覆われてしまったのでした。女性とイスラームに関する真実はこのメロドラマ的な描写とは、遠くかけ離れたものです。

1400年以上も前に、イスラームは女性を抑圧から解放と平等へとその立場を向上させました。女性が所有物として考えられていた時代に、イスラームは尊厳に満ちた地位を女性に再興させたのです。

イスラームが保障する真に永続的な女性解放を洞察するためには、私たちはまず西洋による解放の概念を検証しなければなりません。解放が無制限な自由という形で成立している西洋の国々では、多くの女性は実際のところ、自分たちの生活に不満と無益さを感じています。彼女らは解放における探求において、道徳性や安定の理念を放棄し、そして実生活には少しも似つかわしくない家族や結婚の中に自らを見出したのです。

一日中働き、夜遅く帰宅して家事をすることの、どこが女性解放なのでしょう？6週目の赤ん坊を、他人からしつけや道徳を学ばせるために託児所に預けることの、どこが女性解放なのでしょう？今やたった6歳の女の子たちが摂食障害と診断され、十代の妊娠が後を絶たず、そして家で子供を育てることを選んだ女性が時代遅れや失業者などという目で見られるようになっているのです。

西洋の女性は解放されました。彼女たちにとって自然な生活を選ぶ自由がないという見地において、解放されたのです。彼女たちは、主人たちによって提供された消費品の選択肢のみから選ぶという自由を持っているだけなのです。奴隷になってしまったのは、西洋のいわゆる解放された女性の方です。彼女たちは経済制度やファッション・美容産業への奴隷と見なし、また魅力的に装い、お金を稼ぎ、買い物をするだけの愚かな機械と見なす社会の奴隷になったのです。眼鏡越しに何とか自分を押し上げたキャリアウーマンでさえ、広い家に住み、最新のデザイナーの服だけを着、高級車に乗り、子供たちを最も学費の高い選りすぐりの学校で教育させなければならない消費社会の奴隷なのです。

これは解放か？

女性の本来の性向は夫や父親、兄弟や息子たちといった男性を満足させ、心地よくさせ、支えることにあります。一方男性の本来の性向は妻や母親、姉妹や娘たちといった女性を保護し、支え、彼女たちを合法的に扶養することです。イスラームは人間がこのような本性に従うことを要求する唯一の真の宗教であり、そして人生における無謬の

手引きです。それは私たちが自らを發展させ、大きなムスリム社会の一部を担うところの自然な家族関係を維持することにおいて支え、かつ人間の本質に沿わない異質な考え方を放棄させるのです。

ムスリム女性は社会、家族の構図における自分の居場所を知っています。宗教こそが彼女にとって最優先すべきものであり、それゆえ彼女の役割は明瞭かつ明確です。ムスリム女性こそは、本当の意味で解放されているのです。彼女はいかなる男性や経済構造の奴隷でもなく、神の奴隷なのです。イスラームは女性の精神的、社会的、経済的権利と義務を明確に定義しています。イスラームの明瞭な指針は、彼女たちに諸々の権利を与えました；それらは女性を自然かつ尊敬すべき位階へと高めたのです。

イスラームにおける女性は、平等権のために抗議やデモをする必要はありません。目的もなく物やお金を稼ぐ生活をしなくてもいいのです。自然でたった一つの真実の宗教としてのイスラームの完全さは、男女が平等であり、かつお互いを守りあうパートナーであるという否定出来ない事実をもたらしました。

“主はかれら（の祈り）を聞き入れられ、仰せられた。；本当にわれは、あなた方の誰の働いた働きもむだにしないであろう。男でも女でも、あなた方は互いに同士である。それで移住した者、故郷から追放された者、わが道のために迫害され、また奮戦して殺害された者には、われはきっと彼らから全ての罪業を消滅して、川が下を流れる楽園に入らせよう。；これはアッラーの御許からの報奨である。アッラーの御許にこそ、最も優れた報奨がある。（クルアーン 3:195）

“誰でも正しい行いに励む者は、男でも女でも信仰に堅固な者。これらは楽園に入り、少しも不当に扱われない。”（クルアーン4:124）

イスラームにおける女性は自分の資産をもち、彼女たちが稼いだお金を自分で管理し、売り買いし、また贈り物や寄付をする権利もあります。法定相続の権利もありますし、教育を受ける権利もあります。そして男性も女性も全てのムスリムが知識を求め、それを得ることが義務付けられているのです。結婚したムスリム女性は家族を養い、維持する義務から完全に解放されていますが、もし彼女たちがそうしたいのであれば働くことも出来るでしょう。

彼女たちは決して結婚を強制させられることはありませんが、結婚の申し込みを受け入れたり拒否したりする権利があります。またイス

ラームにおいて女性は、必要なれば離婚を申し入れることも出来ますし、結婚を継続する権利もあります。

またイスラームは家族が社会の核であると教えます。西洋では社会の構造が家族単位での崩壊によって引き裂かれています。女性の解放運動が盛り上がっているのは、これらの崩れた社会なのです。それは平安や安心への道を探すことにおける迷妄やひ弱な試みのように見えます。この平安は人間が神に立ち返り、男性または女性として創造された本来の役割を受け入れた時にのみ現実化するでしょう。

解放は自由を意味しますが、個人が好きなことを行う自由ではありません。自由は決して他人や広範囲の社会を犠牲にしてはならないのです。そして女性は彼女が創造された通りの本来の役割を満たす時、解放されるだけではなく、権限も手にするのです。

あなた方が道ですれ違う控え目な服装の女性や体を覆った女性こそ、解放されているのです。彼女は西洋のコピーという足かせから解放されています。彼女は西洋の経済的奴隷制から、そして夫や社会の助けなしに家や家族を維持する必要性からも解放されたのです。彼女は神聖な導きに基づいて生活するのであり、彼女の生活は平和、幸せ、強さに満ち溢れるのです。彼女は世界を恐れません。それどころかむしろ宇宙の自然の法則に服従することによってのみ成し遂げられる真の解放の事実において、忍耐と堅固さでもってその試練や試みを喜んで受け入れるのです。

抑圧は一切れの生地などではなく、心の病や意識の衰弱により押し量られるのです。抑圧は、真の存在の目的を失った人々で構成される砕け落ちた社会にこそはびこります。そして解放は自然の秩序と神聖な指針に密着し基づいた社会にこそ起こり、定着するのです。イスラームというものはこのような社会なのであり、そしてこれこそがムスリム女性を解放しているのです。